

学校運営計画 (4月)		評価 (3月)		
学校運営方針	教育基本法及び学校教育法に基づき、人格の完成を目指し、農業の意義や役割の理解と「農業に関する将来のスペシャリスト」として必要な専門知識・技術を習得させる。 校訓「自律・創造・協同」を旨としながらより良い校風の樹立に努め、「厳しさや苦しさに耐える自律心」、「感謝と思いやりの心」、自己実現のために必要な「創意工夫する創造力」を育成し、農業及び地域産業並びに地域社会の発展と活性化に寄与できる人材づくりを目指す。			
昨年度の成果と課題	重点目標	具体的目標		
<b>【成果】</b> 校外外で生徒の主体性を生かした様々な取組を行うことにより、地域に開かれた学校を体現することができた。また、生徒会活動をはじめ農業クラブの活動において、生徒たちの積極的な取組みとそれを支える職員の指導の結果、大変優秀な成績を収めることができた。外部から講師を多く招き、キャリア教育の充実を図ったことから、生徒自らが生き方や進路を主体的に考える機会となり、早期の高い就職内定や、国公立大学合格をはじめとする進路実績ができた。 <b>【課題】</b> 一昨年より30名の4学科体制をスタートさせた。弾力的なクラス編成など生徒の学びの希望を生かし、安心できる学習環境で専門的知識等を確実に習得できる専門教育を目指す。また、今後は中学生への広報活動に工夫を加え、農業高校の魅力伝えていく。	(1) 生徒の確かな学力の育成を図り、地域との交流を深める活動を通して農業に関する将来のスペシャリストとしての自覚と必要な専門知識・技術を習得させる。	①学習目的の明確化と規律ある授業を展開し、日常の授業に対して熱心に取り組む態度を育成する。 ②地域との交流活動を通して地域貢献の意識を育み、本校での『学び』を地域に還元する意識と意欲を育む。(特に隣接する公立八女病院との連携強化)		
	(2) 生徒一人一人を見据え、学習内容の習熟の程度に応じた個別指導やグループ別指導学習等の積極的な取組みを行い、「基礎・基本の徹底」を図る。	①教科・科目全領域において基礎学力の定着と充実に向け、授業の工夫改善を図り、きめ細かい指導を行う。 ②少人数クラス・習熟度別学習・ICTを活用した授業等の工夫と活用を図り、生徒一人一人の学習能力の向上に努める。		
	(3) 自尊感情を高め、他人を思いやることのできる心豊かな人間形成に向けた取組を推進し、人権意識の高揚やいじめの撲滅を目指す。	①挨拶等の礼儀作法、時間厳守、掃除の徹底、服装等の基本的な生活習慣を確立するための指導を全職員で取り組む。 ②学校の教育活動全般を通じた人権教育を推進し、生徒一人一人が大切にされることが実感できる学校づくりに努める。 ③生徒支援相談・いじめ問題対策委員会を中心とした組織的な連携により、いじめの発生防止と支援を要する生徒の早期発見に努める。また、スクールカウンセラーや訪問相談員、スクールソーシャルワーカーの活用を図り、悩みを抱える生徒等への教育相談機能を活性化させる。 ④ 特別支援教育充実に向けた校内体制を活性化し、生徒の支援体制を整える。		
	(4) 学校の教育活動全般において、人として正しく判断し、行動できる生徒を育成する。	①生徒会活動及び農業クラブ活動の活性化を図り、農業高校の特色を活かし実践力のある生徒を育成する。(生徒による運営、進行等活躍できる機会を増加する。) ②部活動の見直しを行い入部率の向上を図り、併せて学校活性化を図る。		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価 (3月)	次年度の主な課題
教務部	学習意欲を高め、基礎学力の向上を図る。	各科目の学習目標や計画、評価を点検し、生徒に学習の達成感をもたせる。 特別活動、HRや総合探究を通して、将来の目標や自己の在り方をもたせる。 考査前学習会を実施して学習内容を深めさせ、基礎学力の向上を図る。		
	規律ある授業を実施し、学習環境を充実させる。	教務規定や授業規律を見直し、生徒の学習環境づくりに努める。 学習態度を育成するために、学習の過程などを多面的に評価する。 学年別教科担当者会や各部・各科とも連携し、情報共有や個に応じた指導を図る。		
	農業高校の特色ある教育内容の検討・推進と情報発信を図る。	新学習指導要領をもとに、各教科に係る教育内容の検討や導入を進める。 本校の将来ビジョンを構築し、新学科の編成及び教育課程の検討を進める。 本校グランドデザインの達成や各科の特色を情報発信する。		
生徒指導部	基本的な生活習慣の確立と心の教育の充実を図り、地域から信頼される生徒を育成する	季節や体調・学校行事などその時に応じた身だしなみの指導を徹底させる。 校則の確実な周知を図り、全職員による一貫した指導を行うことで、規範意識を高め、問題行動を未然に防ぐ取組を行う。 交通マナーや郊外指導を充実させ交通事故の減少を目指す。		
	学校行事を通して自らを律し、鍛錬し、愛校心を育むとともに地域社会に貢献できる生徒を育成する	生徒会活動や農業クラブ等への積極的な参加を通して、愛校心を育み、学校生活の充実度100%を目指す。 地域の活性化に繋がる活動に積極的に参加することで、地域を大切に思う気持ちを育成する。 学年・学科単位での指導を中心にに行い指導部と連携した継続的な指導を行う。		
	自他の安全に対する意識を高める安全教育の充実と危機管理体制の整備を図る	情報モラル教育やネットパトロールを通して自他の気持ちを尊重する態度を育み、ネットトラブル等の発生件数を減少させる。 携帯電話の使用については全職員・保護者の共通理解のもと取組、組織的に行う体制を整える。 学校・家庭・関連諸機関等との組織間連携を密に行いトラブルの未然防止と素早い初期対応ができる体制を整える。		

評価項目	具体的目標	具体的方策			
進路指導部	生徒一人ひとりの希望進路を把握し、適切な進路指導を行う。	3 学年担任との定期的な会議を実施する。			
		就職は、生徒が選択肢を広げて考えられるように、多くの企業の情報を発信する。			
		進学は、生徒が上級学校の選択肢を増やすように、多くの情報を発信する。			
	学年や各科と連携して組織的な指導の充実を図る。	企業訪問により求人票を多く獲得し、生徒の適性に合った企業開拓を行う。			
		就職は、10月末に内定率80%、1月末に内定率100%を目指す。			
		進学は、個別指導を徹底し、合格率100%を目指す。			
	3年間を通じた進路指導の検討と充実に努める。	進路のしおりを利用しやすいように改善し、生徒の活用を促す。			
		課外授業を充実して学力の向上を図り、進路希望の実現を図る。			
		資格取得を推進する。			
保健部	生徒の健康課題やニーズの把握	生徒の健康課題やニーズを把握し、個々の特性・発達段階に応じた継続的支援を工夫する。			
		生徒一人一人に自信と誇り感謝を持たせる工夫を重ねていく。			
		学年・他分掌・各種委員会と連携し、健康教育推進事業、SC、SSW、訪問相談の効果的活用を努める。			
	安心・安全で快適な教育環境づくりへの取り組み	校内美化活動の見直しを行う。			
		薬剤師による教育環境の調査・点検・改善を図り、学習環境の「整美」を行う。			
		消毒液の設置・手洗い場の管理・換気等日常における学校環境衛生管理を行う。			
	委員会活動（保健委員会・美化委員会）の活性化	保健委員会と美化委員会を活用した健康教育等を充実させていく。			
		高等学校保健会での研究発表、論文・ポスター・標語等積極的参加し、自らの健康への意識を高める。			
		「保健だより」や掲示物を通して、健康に関する正しい情報を発信して行く。			
研修部	職員研修全体の企画・立案及び円滑な運営を図る	「主体的・対話的で深い学び」をキーワードとした新学習指導要領に対応するための職員研修会を実施する。			
		学校の教育課題や職員のニーズに対応した研修を企画、実施する。			
		ICTを活用した効果的な指導が実施できるように、ICT機器に関連した研修会を実施する。			
		職員の校外外での研修、初任者・先任者及び一般の研究授業、授業アンケート結果等を掲載する。			
	初任者研修・教育実習生の指導力の育成に繋がる研修を教科・各学科・各分掌と連携して実施する	研修部の研修だけでなく、OJTやメンター制を活用し、学校全体が協力して総合的に研修を推進していく。			
		初任者や教育実習生の研修がスムーズに展開できるように関連機関との連絡や報告文書の送付を遺漏なく行う。			
	図書館利用の促進を図り、知的好奇心を喚起する	初任者や教育実習生の指導力育成につながるように、指導教員との連携と研修の企画、実施を行う。			
		図書委員の指導の充実を図り、委員を中心とした「朝の読書」の実施や、読書の活性化を推進する。			
	庶務広報部	式典・行事等の企画、立案及び円滑な運営を図る。	学校運営に係る企画、庶務全般の運営を円滑に行う（会議、行事に係る資料の印刷、管理等）。		
防火防災避難訓練の企画、立案及び円滑な運営を図る。					
表彰に係るデータの管理、表彰式の計画、表彰状の作成等を遺漏なく行う。					
保護者との連携を強化し、PTA活動を活性化させる。		PTA行事、互助会行事、親和会行事に参加を促し、成功させる。			
		PTA総会、地域懇談会、PTA視察研修会等の企画、立案及び円滑な運営を図る。			
		PTA各種委員会活動（合同交通指導、PTA新聞発行、PTA校内バレーボール大会等）全般への支援を行う。			
広報活動を推進し、中学生や地域に浸透を図る。		広報委員会と連携し、八女農だより発行等で、本校の活動を発信して行く。			
		各学科、各学年と連携を密にして、行事や実習等の情報を収集し、地元メディアと連携し、中学生や地域に発信して行く。			
		各学科の販売実習等の活動を庶務・広報部に事前連絡してもらい、FM八女等で発信する。また、各新聞等での八女農業高校の記事を庶務・広報部に連絡してもらい、校内にも広報する。			
評価項目	具体的目標	具体的方策			

第1学年	基本的生活習慣の確立	朝のHRや授業等に遅れないように、担任・副担任及び学年で連携して指導する。			
		挨拶をすることがコミュニケーションの基本であることを理解させ、継続的な指導を行う。			
		教科担任との密接な連携を行い、学習習慣の確立を図る。			
	進路目標の決定	進路指導部と連携し、進路アンケート等を活用しての個人面談や保護者と連携して進路目標を決定していく。			
		部活動、生徒会活動、農業クラブ活動が希望進路を実現する上で大切であることを理解させ、積極的に取り組ませる。			
		各種検定・資格取得に向けて指導を徹底する。			
	規範意識の高揚	他人に優しく接する意識を持たせ、いじめが起きないように気を配り、教科担任・学年での連携を図り、迅速な対応を行う。			
		物事に対して、正しい判断力を身に付けられるように、HRを通じて継続的に指導する。			
		校則を遵守させ、頭髪・服装については、生徒指導部と連携を密にして、学年全体で指導する。			
第2学年	規範意識の深化	生徒指導部と連携して指導の充実を図り、生徒自らが校則を順守していくことで、中堅学年としての意識を高める。			
		問題行動につながる内容については情報を共有し、学年団として取り組む。			
		褒める指導を通して自己肯定感を育み、諸行事や学習活動に対して積極的な取組を促す。			
	基本的生活習慣の強化と学習環境の整備	基本的な生活習慣の指導や授業規律の指導を継続し、学習態度の向上を図る。			
		教室の環境を整える。(持ち物の整理・整頓、ごみの分別、清掃の徹底)			
		お互いに協力して学ぶ仲間作りの意識を持たせる。			
	進路実現に向けた指導の充実	個人面談等を通して生徒の掌握に努め生徒に対応したきめ細やかな指導を行う。			
		進路指導部と連携を図り、進路情報を提供し進路意識を高めさせる。			
		各種検定や資格の取得を積極的に取り組ませる。			
第3学年	進路実現に向けた指導の充実	進路指導部と連携して生徒に的確な情報を提供し、進路の明確化を図る。			
		個人面談及び三者面談を計画的に行い、主体的に進路実現に向けた行動を起こさせる。			
		朝学習を充実させ、基礎学力の定着を図る。			
	最上級生として学校全体をリードする生徒の育成	生活面・学習面において、学校を積極的にリードしていく意識づけを図る。			
		最上級生として、1・2年生と協力する意識や態度を育成する。			
		1・2年生の模範となるように、八女農生としての自覚と愛校心を培う。			
	基本的生活習慣及び規範意識の確立	進路決定後も生活習慣の乱れがないよう、無断欠席や遅刻者をなくす指導を継続する。			
		頭髪・服装については生徒指導部と協力し、カード指導を利用して徹底を図る。			
		生徒の情報を共有し、学年団として取り組む。			
教室の環境を整える。					
農務部	農業クラブ活動の充実と県大会の成功	県大会(ヒューマンサービス部門)・農業鑑定競技担当校として成功に全力を尽くす。			
		プロジェクト発表、意見発表、農業鑑定競技等の指導をより組織的に行う。			
	農業教育の理解と学校PR	農業教育の理解を図る。			
		イベントでの広報活動に力を入れる。			
		インターンシップの充実を図る。			
	農場施設設備・備品の改善と農場の環境整備の充実	機器・器具の整理・整頓及び有効活用、充実した備品の購入を行う。			
		授業に活かせる農場・実験室・実習室の整備を行う。			
	農務行事の精選	体験入学の見直し農務関係の運営を円滑に行う。			
		イベントや販売会の参加の見直しを行う。			

評価項目	具体的目標	具体的方策			
生産技術科	教育内容の精選と充実	2年時からプロジェクト学習を行い、専攻学習内容の充実を図る。			
		各専攻の農産物品質を高め、学科PRに努める。			
		生産から販売までの系統的な学習を通して農業経営力を育成する。			
	進路実現に向けた組織的な指導	組織的に指導を行い、規範意識や職業意識を高めさせる。(挨拶等の礼儀作法、時間厳守、身だしなみ、授業規律等)			
		1年から進路先を研究させ(進路室の活用、パソコンでの情報収集、個人面談など)進路実現に向けて取り組ませる。			
		進路部や担任と連携し、生徒一人一人にチューターが生徒に応じた指導を行う(面接、小論文、4年制大学進学対策等)。			
	地域の要望に貢献できる教育活動	販売実習や地域の保育園及び小・中学生等の体験授業を積極的に行い、地域に根ざした農業教育の充実を図る。			
		研究機関と連携し、最先端の農業の知識・技術の習得に努める。			
		地元農家に学科の学習内容について広報する。			
システム園芸科	教育内容の充実、指導の工夫・改善を図る	学科の特色を生かし、農業生産物の充実と付加価値のある農作物生産をする。			
		一年生に対して学科の内容を分かり易く説明し特色ある教育内容の充実を図る。			
		新たな栽培技術等に取り組み高度な知識や技術の習得を図る。			
	基本的な生活習慣の確立並びに風紀指導の充実を図る	毎時の授業において服装、頭髪、挨拶、言葉遣い及び時間厳守等の指導を行い規律ある学校生活を送らせる。			
		実習時間等を活用し生徒一人ひとりの理解に努める。			
	学習意欲の向上を図る	課題解決学習を積極的に取り組み、学習意欲の向上を図ると共に自主性を身につけさせ、生徒の探究心を引き出させる。			
		資格取得のための指導を強化し合格率の向上と上級の資格取得を目指させスキルアップを図り、進路実現に繋げる。			
		栽培物の担当を決め責任感と共に学習意欲の向上を図る。			
	生物利用科	学科の特色を活かした農業教育の実践と主体的な学習態度の育成	学科の特色を活かした専門性を深化させる研究活動(プロジェクト学習)、八女農ブランドの積極的な開発と資格取得の推進。		
プロジェクト活動の内容の充実を図り、各学年での発表会を実施することで課題解決能力を育成する。					
農業クラブ活動を充実させ、県大会で各種発表・競技会で2個以上の最優秀賞を獲得する。					
社会の一員としての生き方を学ばせる生活指導と安全指導の充実・徹底		週1回の定例会議での情報の共有化を図り、教師間で生徒指導の目線を合わせた職員体制で取り組む。			
		知・徳・体のバランスのとれた人格の形成を図りながら、知識、技術を身につけさせ、生徒の自己実現を図る。			
		インターンシップ事前指導の徹底。受入先の開拓。企業とのネットワーク作り。			
開かれた学校作りの推進と地域との連携・PR強化		保育園・小中学校との交流や出前授業・開放講座等の意欲的な実施。			
		学習活動をHPや学校便り、生物利用科便り、道の駅や販売所のパネルで積極的に発信、生物利用科の取り組みや学習内容を地域に理解させる。			
		祭り(道の駅等)や地域行事への参加等による地域とのつながりを強める。			
	北山農場における動物科学専攻施設の地域開放(動物園化)と新しい動物の導入。				
生活科学科	基本的な生活習慣・社会的マナーの確立	挨拶や正しい言葉遣い、高校生らしい服装や頭髪等、清潔感のある身だしなみについて、意味を考え自ら実践することのできる態度を身につけさせる。			
		授業開始・終了での指導を共通理解を持って行う。			
		遅刻・欠席・早退の届け出の徹底し、事後指導について確実に行う。			
	学習成果を進路に結び付ける	農業分野とヒューマンサービス・フードデザイン分野との連携を図る授業を展開する。地域連携・外部講師による事業を積極的に導入する。			
		多くの生徒の希望に合うインターンシップ先の開拓を行い、進路実現につなげる。			
		進路カードの活用により生徒を把握し、学科職員の共通理解の基、担任を中心に進路指導を行う。			
	あらゆる場面を学習発表の場と考え取り組む	八女農祭で生徒一人ひとりが活躍し、学習成果を発表し、地域へPRする。			
		各行事において規律や団結を学び、リーダーの育成を行い学科としての協力・生徒間の絆を深める。			
		プロジェクト学習の発表会を年2回行い、科学的思考力や問題解決能力・コミュニケーション能力を育成する。			